

球陽高校 SSH 探究活動シンポジウム 実施要項

1 目的

本校の SSH 事業として取り組んできた探究活動の指導の総括、そのノウハウを県内外の教職員で共有し、探究的な学習を推進する。並びに、各学校の探究的な学習を推進する教育課程の編成や授業について議論する場とする。

2 期日・場所

令和3年10月19日(火) 10:00~13:05

オンライン (Microsoft Teams を使用)

3 研究主題

「国際性豊かで主体的な探究心と論理的思考力・表現力を身に付けた人材の育成」

4 日程

9:45-10:00 受付 (Teams ビデオ会議に参加)

10:00-10:10 開会・校長挨拶 (5分)

10:10-10:30 球陽高校 SSH 説明 (20分)

10:30-11:15 基調講演 (45分)

11:15-11:25 休憩 (10分)

11:25-12:05 SS 理数探究 I 授業体験会 (40分)

12:05-13:00 分科会 (55分)

・テーマ① 探究活動をより深める仕組みづくり

・テーマ② 探究活動の指導と評価について

全体共有 (5分)

質疑応答 (5分)

13:00-13:05 閉会・教頭挨拶 (5分)

5 球陽高校 SSH 説明について (10:10-10:30)

球陽高校の取り組み内容やこれまでの成果 (生徒の意識や理系進学などについて) の紹介

6 基調講演について (10:30-11:15)

(1) 演 題

「第四次産業革命と STEAM 教育～球陽高校の学際的・創造的な学びと教育の公共圏創出の必要性～」

(2) 講演者

杉尾 幸司 氏 (琉球大学大学院 教育学研究科 教授, 球陽 SSH 運営指導委員, 本校 探究アドバイザー)

7 SS 理数探究 I 授業体験会 (11:25-12:05)

(1) 内容 ※以下の内容から1つご参加頂く授業をお選びください

	タイトル	内容
①	クリティカルシンキング	自然発生説の科学論争をもとに、対話型授業で科学的に考えるとは何か、確証バイアス、因果関係と相関関係の違いについて学ぶ。
②	データ表現	PBL (課題解決型学習) の手法を用いて、演習を通してデータ表現方法を学ぶ。
③	データ解析	PBL (課題解決型学習) の手法を用いて、演習を通してデータの解析方法や考察について学ぶ。
④	統計処理	演習を織り交ぜながら統計の概念や処理方法について学ぶ。

今年度はコロナ禍で直接授業を見学して頂くことが難しいため、本授業の構成や内容をより詳細に知って頂くために、授業体験会を設置しました。

本会では、各授業担当者から、授業の意図や流れなどを説明したのち、授業一部を体験してもらいものです。質疑応答の時間も設けておりますので、授業について様々な意見交流ができることを楽しみにしております。

8 分科会 (12:05-13:00)

(1) 分科会について

球陽高校の SSH の取り組みや SS 理数探究 I の授業体験を受けて、各テーマに分かれ、参加者で意見交換をした後、本校 SSH 運営指導委員より指導助言等を行います。

(2) 内容

	テーマ	内容
A	探究活動をより深める仕組みづくり 指導助言：福本 晃造 氏 (琉球大学教育学部)	探究を深めていくために、地域にある大学等の高等教育機関や市町村の役場、企業等の連携が臨まれているが、連携の仕組みをどうつくっていくのか。球陽高校事例などを含め、各学校の情報交換など。
B	探究活動の指導と評価について 指導助言：杉尾 幸司 (琉球大学大学院教育学研究科)	探究活動においてどのように指導にあたり、生徒の学びを評価していくのか、球陽高校の事例などを含め、各学校の情報交換など。

(3) 指導助言

琉球大学大学院教育学研究科 教授 杉尾 幸司 氏

琉球大学教育学部 准教授 福本 晃造 氏

9 お申し込み・お問い合わせ

(1) お申し込み

10月15日（金）までに以下の申込みフォームに必要事項を記入しお申し込み下さい。お申込み後、ご登録頂いたメールにオンライン参加に必要な情報をご連絡いたします。

<https://forms.office.com/r/iFB7pnHsYs>



(2) お問い合わせ

沖縄県立球陽高等学校 SSH 研究開発部

中村 元紀（なかむら もとぎ）

E-mail : nakamoto@open.ed.jp

Tel : 098-933-9301